

新見公立短期大学の学生の読書について - 報告 2 -

難波 正義*・山内 圭

(2007年11月7日受理)

2005年と2007年との新入生の読書傾向を調べ、今後の読書指導のありかたを考えた。1カ月に1冊も本を読まない学生数の割合は、2005年の入学生で約20%、2007年の入学生で約33%となり、約13%増加した。ただ、本を読むのが好きだと答えている学生が約50%いるので、大学で学生の読書指導を工夫すれば、1カ月に1冊以上の本を読む学生を増やせる可能性がある。

最近、大学生の基礎学力の低下が指摘されている。この基礎学力の低下は、昔風にいえば、「読み、書き、そろばん」が出来ないということになる。

この「読み、書き、そろばん」の中で、「読み、書き」の一番の基礎は読書であろう。また、読書は、「自分をつくる」、「自分を鍛える」、「自分を広げる」ことに効果があると齋藤は述べている¹⁾。要するに、読書は、基礎学力と人間力を高める非常に有効な手段といえる。

読書離れの進む現代の学生をどれだけ、読書のできる学生に育てるかは重要な教育テーマであろう。大学は「社会で役立つ人材」を育てる社会的責任をもっている。また生涯学習をつづけることができる人間を育てることも大学の責任である。大学を卒業後、自分で学び続けることのできない人間は、自分のキャリアを確立することはできないであろう。

前回、我々は本学に入学後の学生の読書状況について報告した²⁾。その報告で、ノンフィクションの本、メディアに取り上げられた本などがよく読まれているが、歴史に耐えた良書はあまり読まれていないことを我々は指摘した。今回の報告では、2005年度と2007年度の本学への入学生の読書傾向を調べ、学生の活字離れをどのように防ぐかを考察した。

研究方法

2005年と2007年の本学への入学生をアンケートの対象にした。2005年度は、看護学科63名、幼児教育学科54名、地域福祉学科53名、地域看護学専攻科15名を調査対象と

した。一方、2007年度は、看護学科64名、幼児教育学科55名、地域福祉学科49名、地域看護学専攻科16名が調査対象であった。提出率は、表1に示した。

表1 アンケート提出数/学生数 (%)

学科	2005年度入学生	2007年度入学生
看護	44/63 (69.8%)	56/64 (87.5%)
幼児教育	53/54 (98.1%)	49/55 (89.1%)
地域福祉	46/53 (86.8%)	49/49 (100%)
地域看護学	15/15 (100%)	15/16 (93.8%)
平均	85.4%	91.8%

調査項目は、1) 読書が好きであるか、2) 1カ月に何冊の本をよむか、3) 最近読んだ本、についてであった。

調査は入学後1カ月以内に実施した。

結果と考察

表2に、1カ月に本を1冊も本を読まないデータを示した。

表2 1カ月に1冊も本を読まない学生数 / アンケート提出数 (%)

学科	2005年度入学生	2007年度入学生
看護	11/44 (25%)	13/56 (23.2%)
幼児教育	9/53 (17.0%)	19/49 (38.8%)
地域福祉	7/46 (15.2%)	15/49 (30.6%)
地域看護学	5/15 (33%)	6/15 (40%)

*連絡先：難波正義 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

看護学科では、2005年、2007年とも約25%の学生が1カ月に1冊も本を読んでいない。このデータにより活字離れが、2005年度ですでにかなり進んでいるといえる。おなじことは、地域看護学専攻科についてもみられる。

地域看護学専攻科の学生は、短大の看護学科などで、すでに3年間の学業を終えた学生である。一方、看護学科の学生は高等学校より入学しているので、地域看護学専攻科の学生に比べ、年齢的に若い。しかし、少しくらい学歴が上がっても、あるいは、年齢が増しても、読書習慣は身に付いていないことを示している。

一方、1カ月に1冊も本を読まない幼児教育学科と地域福祉学科の学生数は、2007年で有意に上昇している。約30%の学生は1カ月に1冊も本を読んでいない。

この30%の数字は悲しむべきものであろうか。2006年度の読売新聞の読書週間の世論調査では、20才台の一般国民の48%は1カ月の間に1冊も本を読まないとなっている³⁾。この48%に比べれば、本学の30%は救われるけれども、でも、大学生として誇れる数字であろうか。

詳しいデータは省略したが、「本を読むことが好きか」という問いには、全学生の約50%が「好きである」と答えている。本を読むことが好きな学生は少ないので、実際に本を読ませる方策を、大学で考え、実行してゆく必要がある。

表3に、2005年度と2007年度にどのような本がよく読まれているのかを示した。

テレビとか、映画とかとメディアに登場したものがよく読まれていることが分かる。反対に、時の評価に耐えた近現代の作家、たとえば、川端康成、太宰治、遠藤周作、有吉佐和子、藤沢周平、宮本輝、村上春樹、大江健三郎などの作家の作品はほとんど読まれていない。また、外国の文学などもほとんど読まれていない。齋藤が薦める「精神に緊張を伴う読書」は敬遠されている¹⁾。

データは省略したが、この読まれた本を調べる過程で、気づいたことがある。それは、看護学科の学生は医療系の本をよく、幼児教育学科の学生は、子どもの教育や子どもに読んで聞かせる本を、地域福祉学科の学生は、生とか死をテーマにした本を比較的好く読んでいた。

本離れの歯止め策として、先に引用した読売新聞の世論調査では、1) 家庭で読書の習慣を身につけさせる(51.3%)、2) 学校で読書教育に力をいれる(47.1%)、3) 本の値段を安くする(28.5%)などをあげている。学校の教師は真剣になって学生の読書教育に取り組まなければならないと思っている。

文献

- 1) 齋藤孝：読書力、岩波新書、2002
- 2) 難波正義、原田信之、桑原一良：新見公立短期大学の学生の読書について—報告1—、新見公立短期大学紀要、26. 173-176, 2005
- 3) 読売新聞（朝刊）：読書週間 本社世論調査、2006年10月30日

表3 2005年度と2007年度の本学入学生
によく読まれた本の10冊

	2005年度	2007年度
1	世界の中心で愛をさげぶ	"IT"(それと呼ばれた子
2	いま、会いに行きます	恋空
3	"IT"(それと呼ばれた子	手紙
4	ハリー・ポッター	バッテリー
5	だから、あなたも生き抜いて	ハリー・ポッター
6	盲導犬クイール	愛犬クイールの一生
7	五体不満足	1リットルの涙
8	カラフル	天使の卵
9	Good Luck	東京タワー
10	ハッピーバースデー	博士の愛した数式